

年度評価シート

課名 文化振興課

施設の名称 静岡音楽館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>建築基準法において定める建築設備、昇降機及び防火設備の点検が適切に行われているほか、舞台照明設備保守点検業務や音響設備保守点検業務等、ホールの設備が正常に作動するための保守点検を第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。</p> <p>また、空調機や照明器具等の修繕に加え、9階男子トイレ洋式化(ウォシュレット付き)修繕という来場者から要望が多かった修繕も行い、年間合計44件の修繕を実施した。来館者が安全で快適に利用できるよう、音楽ホールとしての質の高さの維持に努めていることが評価できる。</p> <p>(2) 施設利用率・定員に対するコンサート入場者数の割合</p> <p>① 施設利用率</p> <p>令和4年度の来館者数は72,331人(主催事業14,788人、貸館57,543人)、施設利用率(ホール、講堂、リハーサル室の平均)は76.2%であり、前年度(来館者数51,090人(主催事業9,970人、貸館41,120人)、施設利用率68.7%)と比較し、来館者数、施設利用率ともに増加となったが、指定管理者業務仕様書で定めた施設利用率84.0%は達成できなかった。コロナ禍以前の平成28年度から平成30年度までの年間平均は134,079人だったことから、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響が続いているものと考えられる。</p> <p>② 定員に対するコンサート入場者数の割合</p> <p>令和4年度の有効座席に対するコンサート入場者数の割合(ホールを使用するコンサート(公演等事業)が対象)は64.7%であった。前年度は54.7%であり、来館者数や施設利用率と同様に増加しているが、指定管理者業務仕様書で定めた目標の70%を下回った。こちらも新型コロナウイルス感染症による外出自粛が影響しているものと考えられる。</p> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>静岡音楽館の主催事業は、「公演等事業」「普及振興事業」「支援育成事業」「連携事業」を中心としている。新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業が日程変更や中止となったが、感染症対策を行いながら、概ね事業計画のとおり実施された。</p> <p>① 公演等事業</p> <p>公演等事業(17回)の合計入場者数は6,634人となり、前年度の4,725人(17回、うち2回中止)から大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症が拡大する時期もあったが、</p>	

そのような中においてもサーモグラフィーや消毒の設置、分散入場・分散退場等の感染症対策を継続し、来場者が安心して公演を鑑賞できる環境を維持したことを評価したい。また、公演等事業の核として展開している「コンサートシリーズ」は、著名な国内外の演奏家によるホールの音響特性を活かした公演や日本の伝統文化を取り入れた公演等、様々なジャンルの公演を実施した。

② 普及振興事業

「普及振興事業」では、中山間地等の遠方の居住者や特別支援学校等の子どもたちにも演奏を提供するアウトリーチ・コンサートを実施し、静岡音楽館へ足を運ぶことが難しい層にも音楽文化に親しんでもらえる機会とした。一方、静岡音楽館のホールならではの本格的な音響特性を広く周知するため、静岡音楽館へ気軽に来館してもらうことを目的とした「AOIのオープン・デイ」も実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により一部のコンテンツを中止としたが、「オーケストラ名曲の夕べ」や「ロビーコンサート」等を有観客で行った。来館が初めてだったという声もあり、新たな客層の獲得及び認知度の向上へと繋がっていると評価できる。

また、「0歳児からのファミリー・コンサート」や「小学校高学年のためのオルガン・コンサート」といった次世代を担う子どもたちの感性を磨く事業も継続して実施している。今後も「市民が音楽を身近に体験することができる機会の提供」を行うとともに、静岡音楽館の認知度向上にもつながる事業として積極的に取り組んでほしい。

③ 支援育成事業

「支援育成事業」においては、例年実施している「静岡の名手たち」オーディションを開催し、鍵盤楽器部門（15組）、管楽器部門（18組）、アンサンブル部門（2組）の応募があった。審査の結果、鍵盤楽器部門から4組が合格し、9月には合格者によるコンサートを行った。

また、市民の発表機会を提供する「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、新型コロナウイルス感染症の影響で無観客での実施が続いていたが、3年ぶりに観客を入れての開催となった。23団体総勢159人の出演となり、観客数は426人となった。「アマチュア・アンサンブルの日♪」は今年で12回目となり、地元静岡の音楽家を発掘・育成する取り組みを継続的に行うことができている。

④ 他施設との連携事業

静岡科学館及び静岡市美術館と連携して実施する「3館連携事業」は、静岡市美術館「ピーターラビット」展の関連事業として「静岡の名手たち」合格者を起用したミュージアム・コンサートを実施し、チケットが完売する人気事業となった。

また、市内の小中学校で行った「芸術監督 野平一郎による小中学校でのピアノ・ミニ・コンサート（どこでもAOI）」では、児童生徒及び教員も終始真剣に耳を傾けており、音楽館の外へ音楽文化を届けることができた。

主な事業の入場者数等実績は、以下のとおり。

事業内容	入場者数	目標値
公演等事業	6,634人	7,260人
普及振興事業	2,730人	—

支援育成事業（一部中止）	1,458人	—
連携事業	5,116人	—

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切な対応がとられている。即時の対応が困難な要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

また、静岡音楽館では芸術監督制度を採用し、その下に企画会議と市民会議を設けている。外部からの意見や要望を積極的に取り入れる体制を整え、より良好な管理運営を目指している点は評価できる。これからも施設運営や事業計画に多様な意見を取り入れていってほしい。

[具体的な意見・要望と対応状況]

意見等：割引可能な駐車場があるということがわかりにくい。

対応：静岡音楽館窓口でチケットを購入した利用者には以前から案内をしていたが、プレイガイド等で購入した利用者には案内が行き届いていないことがあり、ホームページに情報掲示した。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

各コンサートの入場者へアンケートを実施し、22回の満足度調査を行ったところ、「非常に良い」又は「良い」と回答した人の割合は平均97.4%という高い評価を得ることができた。満足度が100%となった公演もあり、利用者が満足するような質の高いコンサートが行われていると評価できる。

(2) 市民アンケート

令和4年度に文化施設等で実施した市民アンケートによると、静岡音楽館の認知度は76.9%、利用度は47.3%という結果になり、前年度（認知度73.0%、46.2%）と比較し認知度、利用度が微増した。引き続き事業内容の広報だけでなく市民が気軽に来場できるイベントを企画し、施設の魅力をアピールする取組を行いながら、認知度や利用度を高めていくことを期待する。

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査している。各項目の「満足」「やや満足」の回答率は下記のとおり。

- ① 職員の応対 76.7%（前年度76.6%）
- ② 清掃、整理整頓 79.6%（前年度78.6%）
- ③ 案内表示、掲示板 73.2%（前年度 72.6%）
- ④ 開館日・開館時間 72.2%（前年度 71.4%）
- ⑤ 空調・音響・照明等 74.6%（前年度 74.3%）

前年度と比較すると、「満足」「やや満足」と回答した人の割合が微増している。引き続き、利用者への応対を中心に、より意識を高め取り組んでもらうよう期待する。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務の収支状況については、新型コロナウイルスの影響を除いて概ね予算のとおりにより執行されており良好である。指定管理業務の事業内容をより充実させるため、国等の補助制度を積極的に活用している。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

《新型コロナウイルス感染症への対応》

新型コロナウイルス感染症への対応については、国等のガイドラインに沿った適切な対策を講じており、利用者への周知については、速やかに掲示での周知やホームページへの掲出を行う等、適切な時期・方法により行われた。

事業については感染症対策を継続し、来場者が安心して公演を鑑賞できる環境を維持しながら実施した。

管理運営全般に関しては、事業計画に従い概ね良好に実施されている。

施設管理については、静岡中央郵便局との合築建物であることから、日常的に情報交換を行いながら良好な関係を保ちつつ、必要な保守点検を行っている。

貸館事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、利用状況は回復傾向にあるため、引き続き、施設利用拡大に向けた広報に努めていってほしい。

主催事業は概ね事業計画のとおり実施され、公演等事業ではホールの音響特性を活かした上質な音楽を提供する「コンサートシリーズ」だけでなく、「オルガン¥500コンサート」など市民が気軽に音楽を楽しむことができる機会も継続して設けている。普及振興事業や支援育成事業においては、コロナ禍で実施できなくなってしまった事業について工夫しながら徐々に再開しており、今後も市民の鑑賞機会拡大や地域の音楽家の支援・育成のため更なる事業内容の充実を期待する。また、3館連携事業では、各館の特徴を活かした事業を連携して実施することにより内容が濃いものとなるほか、来館者が相互に行き交うことで静岡駅周辺の回遊性を生み、中心市街地の賑わい創出に貢献しているといえる。

引き続き、事業内容の充実や広報手段の工夫に努めていくとともに、静岡音楽館の使命である「広く市民に音楽に触れる機会を継続的に提供」していくことを今後も期待する。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。